

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ファッション・コーディネート Fashion Coordinate		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(特になし)	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
儀礼服飾、ディスプレイ、ファッションデザイン演習、メイク・ヘアーネイル技法				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
阿部芳子	社会福祉棟・3F	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
ファッションコーディネートの基本を学習し、目的別コーディネートの考え方の知識を得られる。				
授業の目標				
①				
授業の方法				
学習の成果(学習成果)				
適切な商品知識を持ち、素材選びや品質管理ができるようになる。ファッション販売業務ではクレーム棟の相談に乗ることができるようになる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス	・生活用品の材質、加工法・品質の違い	・衣料素材の理解①	
第2回目	衣料素材の理解②	素材の鑑別	表示	天然素材(棉・麻)
第3回目	衣料素材の理解③	素材の鑑別	表示	天然素材(毛・絹)
第4回目	衣料素材の理解③	素材の鑑別	表示	化学繊維各種 加工 改質加工 付加加工
第5回目	衣料品の理解	構成		
第6回目	衣料品のラベル・タグ表示、			

第7回目	生活用品の品質と取り扱い、加工、 価格との関係	
第8回目	消費者保護、行動情報	
第9回目	企業の対応 各種事例から学ぶ。	
第10回目	消費者教育・商品テスト	
第11回目	環境・リサイクル問題	
第12回目	洗濯・クリーニングのマークと取り扱い、クリーニング事故例	
第13回目	最近の問題事例から 地域の「消費者センター」について	
第14回目	インターネットの落とし穴 契約トラブル	[ テ ス ト ]
第15回目	ライフプランの知識 I Tの問題	まとめ
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	実習を交えた授業に、まじめに取り組み、教員の設問にきちんと解答し、自分の考えをまとめることができたか。
レポート	20%	自らの考えでまとめ、内容にあった提出物となり、期限に提出されているか。
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	内容を理解し、設問に答えられたか。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
アパレル素論（文化出版局） 2010生活ハンドブック（第1学習社） プリント配布		
履修上の留意点・ルール		
日頃から、商品の素材や品質、ラベル標記に関心を持ち、収集しておく。新聞等の記事に関心を持つことを望む。毎回異なる内容の提出物の提出期限に注意すること。		